
演習Ⅱ 担当 吉村

【授業の到達目標およびテーマ】

知覚・認知心理学を中心に、各自が興味を持つテーマの研究論文を独力で読み、それに関連する新たな研究を実践していける能力を身につけることを目標にします。

【授業の概要と方法】

各自が関心を持つ研究の紹介と、それに対して受講者全員で議論し、実現可能な研究の具体像を作り上げていきます。

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	各自が関心を持っている研究テーマの紹介
第2回	関連論文の紹介1	そのテーマに関する参考となる論文を各自が紹介し、解説する
第3回	関連論文の紹介2	前回の続き
第4回	方法論的検討1	研究を行うときに生じる方法論的問題点について相互に議論する
第5回	関連論文の紹介2	前回の続き
第6回	研究のオリジナリティ	立案した研究にはどのようなオリジナリティがあるかを検討
第7回	研究計画立案1	これまでの検討を踏まえ、自分で行いたい研究の立案し発表する
第8回	関連論文の紹介2	前回の続き
第9回	仮データの収集1	ミニデータの収集を行う
第10回	仮データの収集2	前回の続き
第11回	データの整理法1	前回までに収集したデータを集計し、統計検定にかける作業を行う。
第12回	データの整理法2	前回の続き
第13回	研究報告会1	得られたデータの評価までをパワーポイントを用いて発表する
第14回	研究報告会2	前回の続き
第15回	まとめ	各自の研究実施の方向性の披露を行う

授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】自分の行おうとしている研究に関連する文献を探し読み続ける作業を行います。毎回の発表のための準備を行います。

【テキスト】使いません。

【参考書】各自に関連する文献を、授業時に適宜紹介します。

【成績評価基準】

出席状況と発表内容に加え、他の人の研究へコメントを行うことの積極性を評価します。

演習Ⅱ 渡辺弥生

【授業の到達目標およびテーマ】発達心理学、発達臨床心理学を学ぶための専門的なトレーニングを行います。自分で研究計画を立てデータを取り、分析し発表できるようなスキルの習得を目標とします。幼児期から老年期という生涯発達を視点にして、さまざまな行動や問題の背景に心の発達が関係していることを実感し研究を実行できるスキルを獲得しましょう。

【授業の概要と方法】テーマの設定、文献の収集方法、文献の読み方やまとめ方、方法論や分析方法の理解など、研究に必要なスキルや心がまえについて学びます。特に、発達心理学で用いられる「観察法」、「面接法」、「実験法」、「質問紙法」などを、幅広く実践を交えて学びます。 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの多様性	この分野の研究を概観し、イメージをもつ
第2回	トピックと視点	この分野のトピックや視点について学ぶ
第3回	関連論文の紹介	とにかく一度文献を読む 問題と目的の理解
第4回	リサーチクエスチョン	批判的態度、新しい研究の意義
第5回	研究紹介の実践 1	関連論文の問題と目的を発表する（模擬体験） 理論の確認
第6回	研究紹介の実践 2	関連論文の問題と目的を発表する（模擬体験） 理論の確認
第7回	方法論の理解	縦断的研究と横断的研究、観察法、面接法、質問紙法、実験法
第8回	研究計画の立案 1	目的と方法の見通し 論理的思考のトレーニングと方法論の決定
第9回	模擬データ収集 1	（フィールドにでる、インタビューする
第10回	模擬データ収集 2	質問紙、実験、観察法など）
第11回	データ入力と分析	データ入力と分析
第12回	結果と考察	結果と考察のまとめ
第13回	研究報告会1	パワーポイントでの発表とレジュメの作成
第14回	研究報告会2	パワーポイントでの発表とレジュメの作成
第15回	総括	今後の研究計画

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】研究に関連する文献検索とリーディングの継続、データの収集や分析、整理など一連の研究活動に取り組む。

【テキスト】なし。プリントを配布、またときどき講義します。

【参考書】授業開始時に適宜紹介します。

【成績評価基準】

まずは、出席状況。つぎに、発表内容。全体的に、授業への積極的な態度（自発的な発言、話し合いの関与、など）

【授業の到達目標およびテーマ】

心理学の研究方法を中心に、卒論制作を目標として実際のミニ実験やミニ調査を実際に経験しながら学びます。その過程の知識、スキル、注意点を系統的に経験します。

【学習内容】

こころの問題への研究の仕方を通して、グループで研究テーマの絞り方、研究計画の仕方や準備、方法について、実践で学習します。研究テーマ（睡眠、眠気、パフォーマンス、ストレス、うつなど）に応じて、こころと身体の間連についてエビデンスをどう論文に作成するかの方法を学びます。

- ・ うつや不安とストレスの関係
- ・ コーヒーは本当に眠気を改善するのか？
- ・ 香りの自律神経に対する効果
- ・ 音楽による脳活動の変化 など

【授業計画】

1	オリエンテーション	全体授業計画の紹介	→自己紹介と興味ある研究分野下調べ
2	研究準備・先行研究調査①	グループ分け、研究テーマ→文献検索	
3	研究準備・先行研究調査②	問題提起、研究計画準備	→発表準備
4	研究の計画発表①	計画発表、問題点の確認	→発表・議論後の修正
5	研究の計画発表②	計画発表、問題点の確認	→発表・議論後の修正
6	研究計画の実際①	実験材料・調査用紙作成	→倫理書類、研究実施の準備
7	研究計画の実際②	実施手順、教示の確認	→問題点・修正点の報告
8	研究実施①	実際の研究実施	→データの入力、分析方法検討
9	研究実施②	実際の研究実施	→データの統計解析方法
10	研究のまとめ方①	データ処理のポイント	→それぞれの研究成果での検討
11	研究のまとめ方②	図表の作成のポイント	→それぞれの研究成果での検討
12	研究の発表①	成果発表・討論①	→発表後の議論や問題点から修正
13	研究の発表②	成果発表・討論②	→発表後の議論や問題点から修正
14	論文作成	論文作成上のポイント	→研究論文を自分で作成し発表
15	総括	論文講評・フィードバック→卒論への課題	

【テキスト】

テキストは使用しません。研究テーマや課題に応じて、適宜授業内で紹介します。

【成績評価基準】

評価は、出席 40%、課題発表と議論への参加態度 30%、そして最終的な課題論文評価 30%をあわせて行います。

【その他】

授業計画や本人の希望調査、そして参加人数からグループ分け資料を作成しますので、初回の授業には必ず参加して下さい。万が一、希望者が定員を超過した場合は、「演習Ⅱ 事前調査票」の内容とGPAを参考に総合的に検討しますので、演習Ⅱ 事前調査票を具体的に記述してもらえると助かります。

【授業の到達目標およびテーマ】

この授業では、演習Ⅰで習得したことをふまえて、４年生で受講する研究法Ⅰ・Ⅱへの第二のステップです。卒論を見据えたトレーニングの中で、心理学的なものの考え方とスキルを身につけましょう。

【授業の概要と方法】

グループで発表する方法で授業は進みます。前半では様々な研究方法の分析を中心に読み込んで発表します。後半では、自分たちの興味・関心にあったテーマを選びます。そして、実際に実験・調査を行い、結果・考察を発表します。

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション 導入, グループわけ, 発表順の決定
- 第 2 回 調査研究の実例 1 因子分析を使用した調査研究をグループ毎に発表
- 第 3 回 調査研究の実例 2 パス分析を使用した調査研究をグループ毎に発表
- 第 4 回 調査研究の実例 3 共分散構造分析を使用した調査研究をグループ毎に発表
- 第 5 回 実験研究の実例 1 χ 自乗分析を使用した実験研究をグループ毎に発表
- 第 6 回 実験研究の実例 2 2 要因の分散分析を使用した実験研究をグループ毎に発表
- 第 7 回 実験研究の実例 3 3 要因の分散分析を使用した実験研究をグループ毎に発表
- 第 8 回 先行研究の発表 ゼミ論の核となる先行研究を個人で発表する。それをうけ、グループ分けを行う。
- 第 9 回 ゼミ論の実験・調査計画の発表 グループ毎に発表
- 第 10 回 ゼミ論の実験・調査の実施と分析の仕方の確認, 研究の進捗状況の発表と適切な統計の使い方, データの解釈の確認
- 第 11 回 ゼミ論の実験・調査の実施と図表の作成の確認, 研究の進捗状況の発表と効果的な図表の作成の仕方の確認
- 第 12 回 ゼミ論の実験・調査の結果発表 グループ毎に発表
- 第 13 回 ゼミ論の発表 グループ毎に発表
- 第 14 回 修正ゼミ論の発表 修正箇所を明示しながら, グループ毎に発表
- 第 15 回 ゼミ論の講評 心理学的研究のまとめ

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】 自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し、コメントを考えてくる。

【テキスト】 特に指定しません。

【参考書】

- * 「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」 浦上昌則・脇田貴文著, 東京図書
- * 「実践心理データ解析」 田中敏著, 新曜社

【成績評価基準】

自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は出席 20%、発表 60%、コメント 20%によって決められます。発表は、わかりやすく的確に説明することが求められます。また、コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べるのが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！欠席しないこと。どうしても欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【前年度の授業改善アンケートからの気づき】

「思考力が身についた」が 80%でした！やったぁ！！研究は【自分がする】、研究の全責任は【自分がとる】ものですよね。その結果の思考過程でしょうか。昔も今も社会で求められる人材は、「考える人」です。実行力は、４年生になり、否が応でも卒論をするはめになれば、達成できるでしょう。自由記述に「フィードバックを多くして欲しい」要望が 1 つありました。次年度はその点について気をつけます。ハイ。

【その他】

授業に運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。授業では、パワーポイントによる発表をします。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だと、より詳細な指導が受けられると思います。

演習 II シラバス (仮) 担当：藤田哲也

【授業の到達目標およびテーマ】 卒論を視野に入れ心理学研究について実践的・体験的に学びます。研究計画から論文にまとめるまでの過程を実際に経験することで、自分の興味あるテーマに関する心理学研究の実施に必要な知識・技能を活用できるようになることが目標です。

【授業の概要と方法】 研究方法を身につけるため、先行研究を参考にしながら実験・調査を行うことが、この授業の具体的な作業目標となります。まず、自分が解明したいと考える日常生活における疑問等を、心理学の研究分野（記憶、認知、動機づけ、自己など）に関連づけて整理しましょう。その上で、自分の興味に近い先行研究がないか、探してみましょう（必ず見つかるはずです）。見つけてきた先行研究の背景となる議論の理解から始め、実験・調査の実際の方法、得られたデータを適切に分析する方法まで、一通りの過程を、先行研究を参考にしながら自分自身でたどってみましょう。最終的には、授業内で研究成果を発表した上で、ミニ論文を書いてもらいます。発表ではパワーポイントの効果的な活用法を、ミニ論文の執筆では、学術論文の基本的な書き方を習得してください。発表までは、個人で取り組んでも、ペアやグループで取り組んでもよいですが、ミニ論文は個人での執筆になります。各自が研究として扱うことのできる分野には特に強い制約を設けませんが、主に学習心理学に関連する分野を想定した授業であることは了解しておいてください。

【テキスト・参考書】 テキストはありませんが、ミニ論文・レジュメの書き方や引用の仕方については、参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。「大学基礎講座」(藤田哲也(編), 北大路書房, 2006年)。

【授業計画】 ※受講者数などに応じて内容や進め方が多少変わる可能性があります。例年は概ね以下の通りです。

回	テーマ	内容	授業外に行うべき学習活動
1	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明、卒論とは何かについての概説、受講上の注意、班構成について	自分の興味あるテーマの選定
2	研究の準備 1	研究テーマの決定と先行研究の選定	先行研究の検索・熟読
3	研究の準備 2	研究計画の決定、作業の確認	研究実施のための準備
4	研究実施と発表準備 1	実験材料・調査用紙の作成	研究実施のための調整
5	研究実施と発表準備 2	実験・調査の準備および実施開始	分析方法の確認
6	研究実施と発表準備 3	研究の実施と平行して分析法の確認、結果の分析	結果の分析のまとめ
7	研究実施と発表準備 4	問題・方法・結果・考察のまとめ	発表用レジュメの準備
8	研究実施と発表準備 5	発表用資料の作成	発表用レジュメの完成
9	プレゼンの仕方	パワーポイントの効果的な使い方の説明	パワーポイント作成
10	研究実施と発表準備 6	パワーポイントの準備	発表準備総仕上げ
11	発表 1	受講生による発表	他者へのコメント
12	発表 2	受講生による発表	他者へのコメント
13	ミニ論文作成	論文の構成について再確認・執筆作業	ミニ論文の作成
14	ミニ論文仮提出	受講生同士によるミニ論文の相互評価	ミニ論文の完成
15	総括	授業の振り返り、到達状況の確認、フィードバック	卒論への課題把握

【成績評価基準】 授業への参加 40%、授業内での発表 30%、ミニ論文 30%の割合で評価を行う予定です。発表、ミニ論文とも必須です。授業への参加とは、単に教室に来ているという意味ではなく、積極的に授業運営に関わることを評価の対象とするという意味です。具体的には、毎週、掲示板へ書き込みを行い、受講生相互の交流に貢献することも含まれます。発表では、研究内容に加え、レジュメの体裁、プレゼンの仕方、質疑応答がそれぞれ評価対象となります。ミニ論文では、研究内容と論文の体裁が評価対象となります。いずれの評価観点についても、授業内で詳しく説明を行う予定です。

【その他】 授業計画や運営方針の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回授業に必ず出席してください。

万が一、希望者が定員を超過した場合は、GPA および「演習 II 事前調査票」の記述内容を総合的に判断して、受講者を選抜します。

演習Ⅱシラバス 担当 越智啓太

授業の目的

この授業では、いままで学んできた心理学の知識を用いて、自分の興味のある研究分野を探しだし、先行研究を調査し、自分で実験・調査計画を立て、実験を行い、その結果を分析し、プレゼンテーションします。いままで学んできた「心理学」知識を総合的に使用して「研究」ができるようにしていきます。

到達目標

- (1) 自分が興味を持った分野と先行研究のサーベイができるようになる。
- (2) 実験計画、研究計画を立てることが出来るようになる。
- (3) 実験・調査を行えるようになる。
- (4) 上記の実験データ、調査データを適切な方法で分析し、まとめることができるようにする。
- (5) 他人に興味を持ってもらえるようなプレゼンテーションを行えるようになる。

授業計画

第1～2回：テーマの選択、文献の読解、データベース検索、実験計画についてのレクチャー

第3～12回：各自の研究の実施、中間報告、倫理審査申請書作成、分析方法についてのレクチャー

第13～15回、補講：研究結果のプレゼンテーションと発表会（土曜などに行う）＋打ち上げ。

いままでの学生の取り上げたテーマ：髪型が外見的魅力に及ぼす効果、男はほんとうにぽっちゃりした女性が好きなのか、うそを動作から見破ることができるか、2次元アイドルキャラの印象分析、飲料の広告における適切なタレントの選択、タレントと商品の組み合わせによって商品印象をコントロールできるか、講読ファッション雑誌の傾向から結婚観を予測できるか、人質立てこもり事件のプロファイリング、都市の景観と窃盗事件の発生率の関係、恋愛関係における告白者と恋愛の深さ、コスプレイヤーの性格特性、ロリコン傾向と志向する恋愛パターンの関連、左右対称顔は魅力的か、など

・・・恋愛過程、外見的魅力、消費者行動、犯罪心理、サブカルチャーなどのテーマが得意です。心理学における理論的な問題を解決するよりも現代社会の様々な問題を、しっかりした方法論と(比較的高度な)統計分析で明らかにするような「みんなで楽しめてかつためになる」研究を行うことをモットーにしています。

授業外に行うべき学習活動（準備学習等）

毎回進捗状況確認レポートを課すほか、授業以外の時間をつかって実験や調査、その分析を実施してもらいます。半期で実験や調査が実施できない場合には単位は取得できません。最終回までに実験についての最終報告書を提出します。

成績評価基準

- 1) 実験・調査レポート 70%、2)出席、発言、発表の質 30%です。

万が一、希望者が定員を超過した場合は、基本的にGPAの高い順から定員まで選択します。「演習Ⅱ事前調査票」の記述内容については補助的に参考にします。

演習 II 荒井弘和

【授業の到達目標およびテーマ】

この授業の目標は、心理学の研究計画を立てられるようになることです。研究計画のポイントは、1) 問いは何か？ 2) 本当にできるか？ 3) 誰かの役に立つことを説明できるか？です。

【授業の概要と方法】

この演習 II で、1) 研究論文を読んだり、2) 意見交換をしたり、3) ミニ研究を実施したりして、いくつかの研究のパターンを身体に染み込ませることを目指します。これらのステップを経ることで、良い研究計画が立てられるようになることを目指します。

世の中には、たくさん問題があって、しかもそれらは混とんとしています。この授業を通じて、自分はどうな問題に、どの切り口で迫っていくか？を決めることになります。最終的に、社会に何かを還元できる研究を実施できるように、学びを深めましょう。

授業中に行うことは、1) グループワーク、2) 発表と意見交換、3) ミニ講義です。授業時間外には、1) 授業中に提示された課題、2) 文献検索、3) 発表資料・レポート作成に取り組んでもらいます。

【授業計画】

第 1～2 回：授業の方向性を確認する、問題を洗い出す→授業の方向性を示し、その方向性に照らし合わせながら、関心のあるテーマを出し合う。そのテーマについて話し合う。

第 3～8 回：文献をまとめて発表する、発表内容について意見を交換する→関心のあるテーマの文献をまとめて資料を作成して発表する。その発表内容について、意見を交換する。

第 10～12 回：ミニ研究の計画を立てる、ミニ研究を実施する→ミニ研究を実施して、レポートとしてまとめる。

第 13～15 回：研究計画を発表する、発表内容について意見を交換する→研究計画を作成して発表し、意見を交換する。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

1) 授業中に提示された課題、2) 文献検索、3) 発表資料・レポート作成を課しますので、実施してください。

【テキスト】

テキストは使いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【成績評価基準】

1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、2) グループワークや意見交換への参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。

【その他】

今後の予定を立てるためにも、初回の授業には必ず参加してください。万が一、希望者が定員を超過した場合は、「演習 II 事前調査票」の記述内容の具体性に基づいて、受講者を選抜します。

【授業の到達目標およびテーマ】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究のレビュー、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、論文作成を見据えた研究の実践方法を学びます。

【授業の概要と方法】

研究課題の設定、文献のレビュー、研究仮説の設定、研究計画書の作成、実験計画、実験・調査の遂行、統計解析、レポートの作成、プレゼンテーションなどの各方法を学び、実践します。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、研究計画書の作成およびプレゼンテーションを行います。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

- 身体活動・スポーツ中の感覚認知 / 心理的情報と生理的状態の対応
- 体型認識と減量行動・リバウンド・身体活動量
- 瘦身指向に関与する性格・意識の特徴
- 高齢者・有疾患者の運動・身体活動と Quality of Life / 生活満足度

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第2回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第3回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。
第4回	研究計画の立案1	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第5回	研究計画の立案2	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第6回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第7回	研究の実践1	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第8回	研究の実践2	グループごとに、データ分析、結果のまとめ・解釈を行う。
第9回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第10回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第11回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ、課題を明らかにする。
第12回	個人研究の発表1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第13回	個人研究の発表2	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第14回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し、まとめる。
第15回	総括	授業全体の総括を行い、今後の活動について討論する。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ）、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。

【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【成績評価基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：50%、2) 最終的な個人研究の研究計画書の内容：20%、3) 授業への参画状況（出席・発言など）：30%、で行います。

【その他】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

万が一、希望者が定員を超過した場合は、GPA および「演習Ⅱ事前調査票」の記述内容の具体性に基づいて受講者を選抜します。